

第70回記念特集 あばしりオホーツク夏まつり



第39回(昭和60年)この年初めて花火大会を中止し、代わりに「浅草三社みこし・こどもみこし・オホーツク流氷みこし(写真)」がおこなわれました。しかし、市民の声により、翌年、花火大会が復活しました。



あばしりの四季(夏)を感じさせてくれる
『あばしりオホーツク夏まつり』

昭和23年に『第1回網走観光
港まつり』が開催され、本年度
70回目を迎えることとなりました。
※(年度数と回数は一一致せず)

日本の夏祭りの多くは起源的
には、盂蘭盆会(盆)・七夕・
祇園祭ぎおんえなどが絡んだものやその
周辺の行事であるものが多く、
旧暦では6・7月の行事に当た
る時期に、農村では夏季の農事
による労働の疲れに関わる行事
として、都市では江戸時代以前
より夏季の疫病封じその死者を
弔う行事として行なわれてきま
した。

本年、70回と節目の年である
ことから、当時より網走に住ん
でいる方に昔のお祭りの様子に
ついてお話しを伺いました。

すると、70年前以上(戦中)
にも各部落の神楽や小さなお祭
はひそかに行われていたそうで
すが、戦争中であつたことから、
花火大会だけはずっと中止され
いたようです。

終戦後、網走市や網走商工会
議所が設立し、戦後から3年後
となる昭和23年、ようやく網走
の花火大会が11年ぶりに復活す
ることができ、同時に網走の夏
まつりが復活することとなりま
した。

今回、第70回という節目の年
を記念し、これまで多くの諸先
輩方が築き上げ、盛り上げてき
た『夏まつりの記録』について
特集することにいたしました。
是非、ご覧ください！



網走の夏まつりの記憶を辿って！



網走観光港まつり「各区対抗仮装行列コンテスト」(昭和27～28年頃)

当時のお祭りの様子について子供の頃から夏まつりを見てきた方にお話を伺ったところ、昭和30年頃まで、網走市内の住所を5区に分けた中、各区対抗で行うイベントが多かったとのこと。

そのイベントの一つとして、現在の網走小学校のグラウンドで各区対抗運動会が行なわれていました。

ドジョウを水桶からつかんで速さを競う徒競走などは魚を扱うプロである魚屋さんが圧勝していたそうです。

その他、仮装行列をして市内を練り歩く「各区対抗仮装行列コンテスト」や花柳界(戦中戦後、お座敷等で御酌をする芸者)の「花街コンテスト」などが開催されていました。

テレビも無い時代、子供が一番楽しみにしている行事でした。

学生たちの演奏の場「音楽行進」



昭和23年『第1回網走観光港まつり』から音楽演奏会は行われていました。昭和32年、第10回目の夏まつりから、管内の小・中・高校生の生徒たちに演奏の場を提供することと、網走市民やお祭りに訪れた観光客等に生の演奏の素晴らしさを知ってもらうことを目的に「音楽行進」が開催されてきました。

行進コースは試行錯誤しながら

昭和60年頃に開催された「音楽大行進」

ら、現在のコースに落ち着きました。

15年前までは、生徒数が多く吹奏楽に入っても全員が行進に参加できなかったこともあり、行進後に網走市民会館において演奏会なども実施してありました。

また、昭和60年頃までは団塊世代の子供が多かったこともあり、行進を観ようと街中に人が集まり身動きが取れないほど大盛況でした。



現在の「音楽行進」

毎年、花火大会を拡大!!



昨年の「花火大会」

昭和32年7月、網走観光港まつりのメインイベントとして、はじめてナイアガラの滝と一千発の花火が打上げられました。昭和35年8月には、全国花火コンクールが開催されるなど、高度成長期やバブルなどにも比例して年々花火大会の打上げ数が拡大していきました。昭和37年7月に行われた納涼花火大会では二千発の花火が打上げられ、平成3年には道内初の3尺玉が打上げられました。

流氷音頭が生まれた経緯とは



昭和50年頃の「流氷音頭」を踊る市民

昭和40年7月、当所、観光協会、市などが集まり、冬の観光資源開発について検討し、流氷にスポットをあてたのが始まりです。

そこで俳人であった高田千恵氏に「流氷音頭」の作詞を依頼、作曲は当時、網走南ヶ丘高校の教諭をしていた山口祐功氏、編曲を古関裕而氏（日本コロムビア所属の作曲家）が担当。歌い手に歌手の島倉千代子氏が抜擢され、本人を招き発表会などが実施されました。

街区対抗綱引きから「麦稈ロール綱引き大会」



街区対抗綱引き大会

昭和62年7月、街中のアプト4歩行者天国において、街区対抗綱引きとチビッコ綱引き大会が行なわれていました。しかし、参加者の減少などにより夏まつり行事から一度外されるようになりました。

そして、5年前（平成23年）夏まつり実行委員会において、参加者と観覧者が一緒に盛り上がることでできる行事を検討した結果、麦稈ロール2つを綱の中心に挿み込んで両方から綱を

引き合う「麦稈ロール引き大会」が開催されるようになりました。これまでの綱引きとは違い、麦稈ロール（重さ約3百キ）が中心2つあるため、ただ力まかせに綱を引いても簡単に勝負が決まらないので、高校生であっても力自慢の大人と良い勝負をすることができ、大変な盛り上がりを見せる行事の一つとなっています。



昨年の麦稈ロール引き大会

～ あばしりオホーツク夏まつり年表 ～

◆あばしりオホーツク夏まつりの10年毎の行事や、その年に網走市の状況などについてご紹介します。

◆昭和23年、第1回夏まつり

8月7日(土)～16日(月)の10日間開催。夏まつり開催イベント(店頭装飾展、特産品展、観光写真展、実業野球大会、絵画展、華道、職場対抗相撲大会、映画、音楽、舞踊、盆踊り大会、自転車競走大会)花火大会が11年ぶりに復活。

◆昭和32年、第10回夏まつり

7月、夏まつり開催イベント(音楽大行進、花火大会1千発ナイアガラ滝など)岡田由太郎氏が、網走商工会議所の第5代会頭に就任。商工運動会を5年ぶりに開催。網走新聞創刊10周年記念。8月、卯原内開基50周年祝賀会。網走測候所が地方気象台に昇格。

◆昭和41年、第20回夏まつり

7月、夏まつり開催イベント(納涼国際花火大会、音楽大パレード、食品衛生車輛パレードの他、協賛行事として流氷音頭パレード、ビール早飲大会)。2月、第1回オホーツク流氷まつりを開催(旧中央小学校跡地)11月、網走商工会議所創立20周年記念式典を挙げる。12月、網走警察署新庁舎の落成式。

◆昭和47年(夏まつりの名称が変更)

網走観光港まつりが「観光網走オホーツク港まつり」と名称変更8月に開催。オホーツク港まつり行事の映画が制作される(17日)、網走市開基100年、市制施行25年記念式。

◆昭和48年(夏まつりの名称が更に変更)

現在の「あばしりオホーツク夏まつり」と名称を変える。6月、映画「男はつらいよ」(忘れな草)ロケを開始。

◆昭和51年、第30回夏まつり

8月、夏まつり開催イベント(花火大会3000発を商港埠頭にて実施、音楽大行進と演奏会、海上オホーツク太鼓、流氷音頭パレード、野外ビールパーティ、大東流合気道演武会、盆踊大会、子供盆踊り、底曳船対抗ソフト大会、花街歌謡ショー)。10月、網走商工会議所の「商工名鑑」を発刊。創立30周年記念式典を開催。

◆昭和60年、花火大会を中止し、浅草三社みこしを実施

6月、夏まつり実行委員会は32年間の実績がある花火大会を中止、代わりに伝統の浅草三社みこしを招聘し、地元の子供みこし、オホーツク流氷みこしを開催するが、翌年に花火大会復活。4月、新女満別空港落成式。

◆昭和61年、40回夏まつり

7月、夏まつり開催イベント(流氷おどり、オロチョンの火祭り、花火大会、全道氷彫刻展夏季網走大会、網走川レガッタ、音楽行進、演奏会)。2月、カナダ・ポートアルバーニー市と姉妹都市を提携。浦士別・音根内・北浜・藻琴中学校の閉校式。10月、市立郷土博物館創立50周年記念回顧展。11月、網走第四中学校開校記念式。

◆平成8年、第50回夏まつり

7月、夏まつり開催イベント(納涼ビール祭り、網走祭好会みこし、流氷おどり、流氷おどりニューバージョン、音楽大行進、演奏会、協賛行事：網走川祭、オロチョンの火祭り)。

◆平成18年、第60回夏まつり

7月、夏まつり開催イベント(納涼ビール祭り、流氷おどり、流氷おどりニューバージョン、音楽大行進、花火大会)大空町開町記念式典。道立オホーツク公園パークゴルフ場「天都の社」が国際パークゴルフ協会の公認コースに認定。6月、中原章博氏が第13代網走商工会議所会頭に就任。9月、道道網走公園線美岬トンネルが開通。網走市民「はな・てんと」まつりが開催。複合商業施設「駒場ショッピングタウンアルサキット」がオープン(11店舗)。

◆平成28年、第70回夏まつり(予定)

7月、夏まつり開催イベント(納涼ビール祭り、流氷おどり、麦稈ロール引き大会、あばしり流氷乱舞、音楽行進、花火大会(全道初となる昼の花火大会を開催)。2月、博物館網走監獄の5棟(庁舎、舎房、教誨堂及び食堂、鍵鎖附着所、炊場)が国の重要文化財に指定される。



ナイアガラの滝花火(昭和59年)



風船割り大会(昭和53年)



流氷おどりニューバージョン
を初めて実施(平成8年)



コーラー早飲み大会(昭和58年)

夏まつりの思い出 写真集



※写真提供
網走市(広報あばしり)

流氷みこし(昭和51年)